

令和2年度における「やまの健康」の取組について

1 令和2年度「やまの健康」の取組について

(1) 令和2年度「やまの健康」モデル地域(※)の選定

選定地域：栗東市金勝地域、甲賀市大原地域、高島市南深清水地域

(新規地域) 県事業により地域の将来像を議論するプラットフォームを設立
「やまの健康」宣言策定支援

(継続・新規地域) 活動交付金の交付等によりモデル地域の取組を伴走型で支援

※モデル地域：「やまの健康」の取組を実践する地域

【新規】令和2年度選定モデル地域の概要 **初年度**

【栗東市金勝地域】

人 口：6,709人 高齢化率：21.3% (令和元年度栗東市統計書)
活動内容：森林資源(空間含む)を活用した各種体験コンテンツの集積による農山村活性化
(マウンテンバイクトレイルツアー、森林セラピー、農林業体験など)

【甲賀市大原地域】

人 口：4,889人 高齢化率：29.8% (申請書抜粋2015年)
活動内容：森林整備を通じた山の元気と人の元気の実現
(森林境界明確化、森林体験学習、地域通貨を活用した木材流通促進(木の駅)など)

【高島市南深清水地域】

人 口：158人 高齢化率：42.4% (申請書抜粋)
活動内容：地域資源を活かした「食」と「運動・観光」によるウェルネスツーリズムの実現
(柿やオリーブの商品開発、高島トレイル、東洋医学を取り入れた交流イベントなど)

【継続】令和元年度選定モデル地域の状況 **2年目**

【大津市葛川地域】

人 口：237人 高齢化率：54.0% (令和元年7月1日現在)
活動内容：特産品としてリンドウ栽培と販売、カーシェアリング、里山保全(重要インフラ保全)

【米原市伊吹北部地域】

人 口：712人 高齢化率：46.5% (令和元年7月1日現在)
活動内容：ドローンビジネス(技術勉強会、実践プログラム開発、ドローンポイント(ドローン+キャンプ)施設)
地元木材による炭生産・販売、地元食材販路開拓、古民家農泊、染料および茅葺屋根材料としてイブキカリヤスの生産・販売、薬草ビール開発

(2) その他「やまの健康」の推進について

新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえながら、「やまの健康」事業を一段高める、県民全体のアクション、ムーブメントへとつなげていくため今年度、以下を実施

(啓発)

- 県民ムーブメントの機運醸成のため、アクティブで情報発信力がある若い世代にやまに関心を高めてもらえるよう、プロバスケットボールチーム滋賀レイクスターズとコラボレーションした啓発動画を3本作成し、7月より順次公開

- 県民ムーブメントの具体的な取組として、上記動画企画を通じて県産材を用いたニュースポーツを考案、県民ムーブメントに繋げるべく、制作・販売等におけるパートナー企業を公募（令和2年7月21日～10月30日）。現在、試作品を製作中。

2 令和2年度「やまの健康」の取組と来年度の事業推進について

(1) 農山村の魅力を高める取組について

- 【課題】 地域から活動の担い手確保に関する課題についての声があがっている。
- 【方針】 都市との関わりにおいて関係人口を増やしていくことなどを軸に、今後の施策について検討
- 【対応】 来年度の取組として、引き続きモデル地域の活動を支援しつつ、下記(2)および「ふるさと支え合いプロジェクト」（農政水産部農村振興課）などと連携を図る。

(2) 都市を含めた県民をやまに導く取組について

- 【課題①】 都市生活におけるストレス、子育ての不安など都市における課題がある。
- 【方針】 前年度策定したアクションガイドを足掛かりに、都市も含めた県民の皆さんがやまに関心を持ち、やまへ導くための県民全体のアクション、ムーブメントを創出
- 【対応】 新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえながら、アクション・県民ムーブメントの具体的な取組として、以下を展開
 - ・木ややまへの意識付けを目的に、滋賀レイクスターズとのコラボ企画を通じて県産材を用いたニュースポーツを広げ、県民ムーブメントに繋げるべく、公募により決定した制作・販売等におけるパートナー企業と連携して普及を図る。
 - ・木育を通じて、県民がやまの価値や魅力、木の良さを見直す事業として「まちの森林（もり）づくりプロジェクト」を推進
 - ・多様な主体による「やまの健康」の推進を目的に、県と広報において協力していただける企業を募集のうえ補助事業により支援し、啓発活動を連携して展開

【課題②】 コロナ禍における新しい生活様式の構築に向けたやまの活用

- 【方針】 コロナ禍を契機にやまへの関心が高まった、また、農山村に住みたいという機運が高まっていることや、在宅勤務やサテライトオフィスにおける勤務、いわゆるテレワークの導入など新しい生活様式の構築が必要。
- 【対応】 働き方の一つとしてワーケーションをはじめ企業にどのようなニーズがあるか等のマーケティング調査を実施し、社会ニーズの変動を捉え、やまの優位性を最大限に活かし、やまの暮らし、県産材の利用促進を図るきっかけにするなど、ピンチをチャンスに変える発想で新しい施策を検討。

- ➡ 農山村と都市の両面での事業展開により、県全体でやまとの関わりや経済循環を創出することで、「やまの健康」の実現に努める。

県産材を用いた「やまの健康」の取組

ニュースポーツ『レイウッド』(現在,商標登録出願中)

1 主 旨

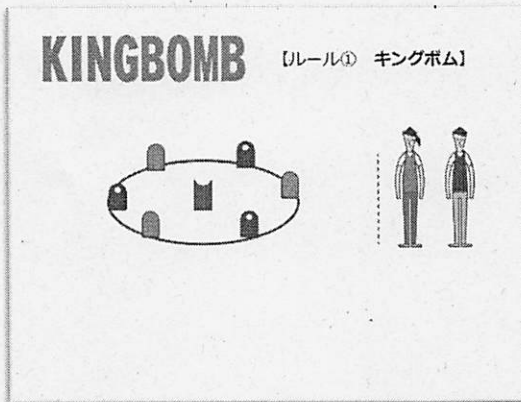
「やまの健康」が掲げる FATHER FOREST Life の推進に向け、やまに触れる機会の創出等を目的として、県産材を使った新たなスポーツを開発中。

2 概 要

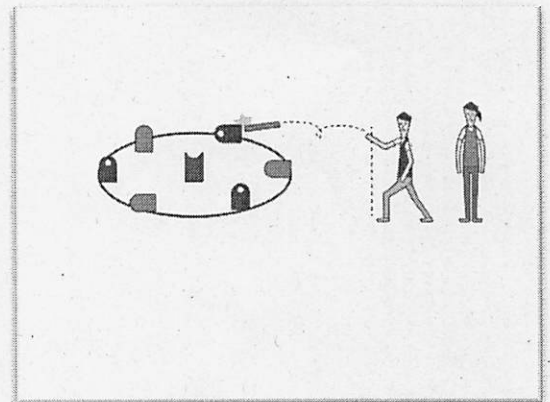
木の棒（ロッド）を投げて、木の的（シルド、キングット）を倒すスポーツ。



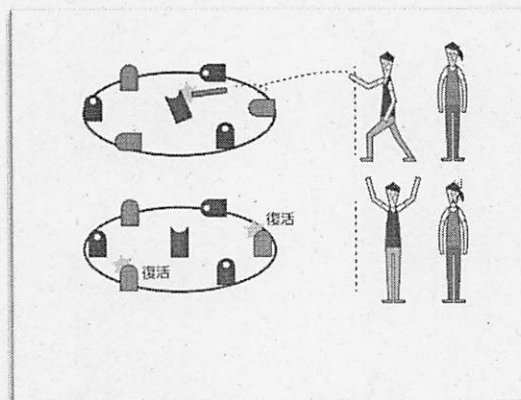
3 ルール



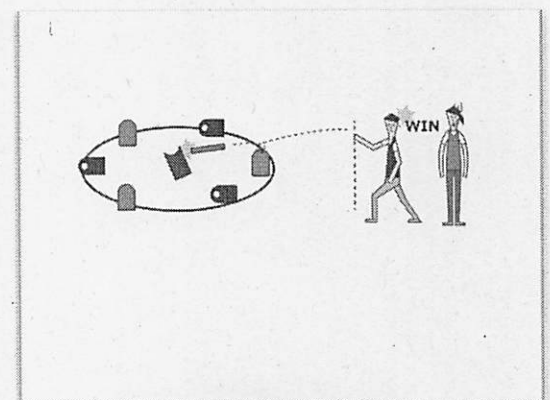
〔1：配置〕
中央にキングットを置き、ロープに触れるように交互にシルドを置く。



〔2：倒す〕
チームで交互にロッドを1本ずつ投げ、自分のチームの3つのシルドを倒す。



〔3：復活〕
途中でキングットを倒すと、相手のシルドとキングットをその場で立て直すことができる。



〔4：挑戦〕
自分のシルドを3つ全て倒すとキングットに挑戦。キングットを倒すと勝ち。

